

2017年度アメリカ派遣留学体験レポート

国際文化学科 2年
学籍番号 21016070
竹石 三則

1. はじめに一移動（出発から授業開始まで）

私たちの住む新潟から留学先であるアメリカのミズーリ州までは多くの移動が必要である。まず新潟から成田空港に行き、成田からアメリカに向かう。アメリカでも乗り継ぎがあり、計約2日間を移動に費やすことになる。私はこの移動が留学において一番か二番につらいものだった。

2. 今回の留学について

セントラルミズーリ州立大学での生活は充実していた。行くか行かないか悩んでいるとしたら、ぜひ行くことをお勧めする。新潟の大学生活では得られないものが多々あるからだ。その中でも「挫折」というものが私にとっては一番の壁であり、収穫だった。留学前、私はカタカナ発音をしていた。私が日常生活で唯一英語を使える場は授業であり、そこで英語を公用語とする人のように話すのは、クラスメイトに対して不親切な気がしたからだ。そのため、アメリカに行って大変苦労することになった。英語専攻にもかかわらず、変な英語しか話せないからだ。これは実体験なので、来年以降の学生は、同じことを起こさないようにしてほしい。たとえば、先生から何か連絡があったとき、聞き取れなかったとしよう。さっきなんて言ったのかと聞けば解決するのだが、言葉が伝わらない経験を何度もすると、話すのが怖くなり、話すことを避けるようになる。外国人はおろか日本人にも友達がおらず、わからないのにわからないままにしていたため、宿題を提出できないこともあった。海外に行った人にしかわからないかもしれないが、伝わらないと自分の英語がすべて間違っているような気持ちになる。その悪循環から私が変わったのは、共に学ぶ皆の姿があったからだ。中東や韓国出身のクラスメイトは、自分のことだけで大変なはずなのに、多くのことを教えてくれた。その日から、人が話していた言葉で使えそうなものをメモし、毎日発音練習を繰り返していたら、聞き取ってもらえる割合が格段に上がった。最終的には、卒業式でクラス代表としてスピーチをやらせてもらえるまでに成長できた。成長

のきっかけは「挫折」であり、それは日本で大学に通っているだけでは経験できなかっただろう。たとえ派遣留学でなくても、海外に行くことには大きな価値があると感じた。

3. 人・気候について

私が出会ったミズーリ州ウォーレンズバーグに住む人は良い人ばかりだった。初めて寮に到着した際は出迎えてくれたし、扉は必ず誰かがあけて待っていてくれた。先生方も自分の時間を割いて力になってくれた。ネットで調べると、注意事項が多く出てくると思うが、私たちが住んだ町は安全で、日本での生活とほぼ同じでよいと感じた。気候も新潟市と似ているので、服を買い足す必要もないだろう。

4. 終わりに

私が留学を無事、成功裏に終えられたのは、多くの支えがあったからであり、感謝の気持ちは一生忘れない。この留学で得たものを忘れず、更に成長できるよう、留学していた時以上に勉学に励むつもりだ。